# 令和6年度　大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
# ―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

**１　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的**

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

**２　「中学生チャレンジテスト」の調査の目的**

(1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

(2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

(3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

(4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## １　全国学力・学習状況調査

| 学年<br>実施月日 | | 生徒数（人） | 平均正答率（%） | | 平均無解答率（%） | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 国語 | 数学 | 国語 | 数学 |
| ３　年 | 学校 | 35 | 38 | 30 | 9.6 | 27.2 |
| | 大阪市 | ― | 56 | 51 | 4.1 | 12.5 |
| 4月18日 | 全国 | ― | 58.1 | 52.5 | 3.9 | 11.3 |

## ２　中学生チャレンジテスト

| 学年<br>実施月日 | | 生徒数（人） | 平均点（点） | | | | | 平均無解答率（%） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 国語 | 社会 | 数学 | 理科※ | 英語 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科※ | 英語 |
| ３　年 | 学校 | 33 | 48.2 | 36.9 | 31.4 | 35.8 | 34.6 | 11.4 | 8.8 | 27.5 | 10.2 | 13.7 |
| | 大阪市 | ― | 65.4 | 50.2 | 48.8 | 52.1 | 54.0 | 4.9 | 4.7 | 14.3 | 4.1 | 6.5 |
| 9月3日 | 大阪府 | ― | 65.2 | 50.4 | 49.1 | 52.3 | 53.6 | 5.3 | 5.0 | 14.8 | 4.4 | 6.9 |

※　3年生の理科はC問題を選択

# 令和6年度　大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
## ―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

**調査結果から**

○全国学力・学習状況調査結果において

【成果と課題】

〈国語〉

成果：問題番号1一、1三、2一、2二、2三、4一のように、正答率では全国を下回っているものの、無回答率では0%を記録しており、テストについての意欲は持てている。授業において、読解力向上に向けて、NIEを取り入れることによって、長い文章の読解に対する苦手意識を改善するよう努めている。

課題：問題番号1四、3四において無回答率が30%後半となっており、自分の意見を文章化して答えることに苦手意識を持つ生徒が多い。

〈数学〉

成果：二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかを問う問題（8（1）正答率54.3%）、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかを問う問題（8（3）正答率57.1%）など関数の分野における正答率が比較的高かった。また、問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかを問う問題（正答率68.6%）も高く、問題を読み解く力は高まってきているといえる。

課題：すべての分野において正答率は対全国比率を下回る状況である。特に無回答率が高く、記述式問題の無回答率は50%を超えている。

【今後に向けて】

〈国語〉

記述問題以外にも正答率が低かった問題としては、内容を読み取ったうえで、正しい選択肢を選ぶものがあげられる。これについては、多くの文章を読んでどのような主旨なのか考える教材を数多く取り扱う必要がある。また、日常の会話の中から情報を取り上げる問題についても正答率が低いが、原因の一つとして、語彙力の不足が大きいと感じられる。このことに対する改善策としては授業において類義語対義語をより多く取り上げていくことにする。また、海外からの渡日生徒の場合、日本語を話す機会が絶対的に足りず、日本語で思考することが難しいと考えられる。このような生徒のために少しでも日本語に触れる機会を作りたいと考えている。

〈数学〉

すべての分野において正答率は対全国比率を下回る状況であり、基本的事項の習得が不可欠である。反復した演習や小テストでの理解度の確認を取り入れるなどして、定着を図りたい。数学が比較的得意な生徒には発展問題など、様々なパターンの問題に取り組ませ、応用力を高めさせたい。
また、記述式の無回答率がかなり高いことから、普段の授業から物事を考え、表現する力を高めていく必要がある。

# 令和6年度　大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
## ―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

### 調査結果から

○中学生チャレンジテストにおいて

【成果と課題】

〈国語〉

成果：問題番号一1、一4、一5などのように、選択式問題については、正答率では大阪府を下回っているものの、無回答率では0％を記録しているものが多く、テストへの意欲は持つことができている。例年全生徒が漢字検定を受けるので、授業において個人の学習状況と受験級に合わせた、漢字の学習の時間をとっており、学習の基礎となる文字の知識を増やせるよう努めている。

課題：問題番号三2、三3、四5において無回答率が高くなっており、記述式問題において、自分の意見を文章化して答えることに苦手意識を持つ生徒が多い。

〈社会〉

成果：1（1）、1（2）、3（3）③、4（1）③（ⅱ）に関しては、繰り返し復習をしている範囲であり、平均を超えることができた。また、点数が1桁の生徒が0名で苦手な生徒も解ける問題を見つけて諦めずに取り組むことができた。

課題：50点以上の生徒が6名と、上位層の得点を伸ばすことができなかった。教科書には載っているが、授業で繰り返し伝えることができていなかった問題があった。また、2（1）①や3（1）①などの重要語句の正答率も低く、基礎的な知識を増やすことの大切さを改めて実感した。また、記号問題にはついては答えることができるが、文章で説明する問題においては無回答率が高かった。

〈数学〉

成果：yが x に比例するものを判断する問題(正答率54.1%)や、反比例のグラフから x とyの関係を読み取る問題(正答率51.4%)など2数の関係を関数として理解し、グラフや表に表す分野において正答率が比較的高かった。また、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかを問う問題（正答率70.3％)も高く、基礎的な計算力は高まってきているといえる。

課題：ほぼすべての分野において正答率が対全国比率を下回る状況であること。特に証明や、記述問題における無回答率が高いため、自分で考えて表現する力を育てる必要がある。

〈理科〉

成果：正答率は低いものの、選択式の問題では23問中20問で無回答率が0％であり、前向きに取り組んでいることがわかる。問題番号2(1)、(4)、(5)、では、正答率が大阪府平均を上回ることもできた。また、実験について問う問題での正答率が高く、問題番号4(1)②（ｉ）では正答率が54.1％、5C(2)①では64.9％、5C(2)②では62.2％であり、日々の授業で積極的に実験を取り入れた授業づくりをした成果が出ていた。

課題：問題番号1(1)①（ｉ）や3(4)など、大阪府で正答率が高い基礎知識を問う問題での正答率が非常に低かった。また、問題番号1(1)②（ｉ）などの記述式の無回答率が高く、自分の意見を文章化して答えることに苦手意識を持つ生徒が多い。

〈英語〉

成果：問1から問4において問3の（3）以外に対する無回答率では0％を記録しており、問題に対して答えを導きだそうとする様子がみられる。授業においても段階的に支援やヒントを与えながら、生徒が無回答になることがないように努めている。

課題：すべての分野において正答率は対全国比率を下回る状況である。大阪府の平均点が53.6に対し、本校の平均点が34.6という結果から基本的な学習内容の定着が不十分であるということが分かった。また、得点分布グラフから10点～29点までの生徒の割合が合計で54％もあったことからも基本的な学習内容の定着が必要であることが分かった。

【今後に向けて】

〈国語〉

記述式問題への苦手意識を克服するため、授業内で「考えて書く時間」を増やしていく。

〈社会〉

入試に向けて、重要語句を覚えることなどの基礎的な部分と応用問題の両方を平行して復習していく。特に教科書に載っているグラフや表を再度確認し、復習を重ねていく。また、問題集などを利用し多くの問題を解いていく。

〈数学〉

すべての分野において正答率は対全国比率を下回る状況であり、基本的事項の習得が不可欠である。反復した演習や授業初めに既習単元の復習を行い理解度の確認、定着を図る。数学が比較的得意な生徒には発展問題など、様々なパターンの問題に取り組ませ、応用力を高めさせたい。
また、記述式の無回答率がかなり高いことから、普段の授業から物事を考え、表現する力を高めていく必要がある。

〈理科〉

自然現象の名称や器具の名称など、本来なら正答率が上がるはずの基礎的な内容が定着していないため、反復した演習や小テストを実施し、基礎的な知識の定着を図る。また、文章を読み取り自然現象を想像する力を養うため、今後も実験等の体験的な学習は積極的に行っていく。

〈英語〉

すべての分野において正答率が対全国平均を下回っている状況であるため、この状況を改善するために、英単語や英文法などの基本的な内容を定着させることができるように指導を行っていく。また、全国平均に比べて無回答率が改善されたことから、引き続き生徒が無回答になることがないように指導をしていきたい。

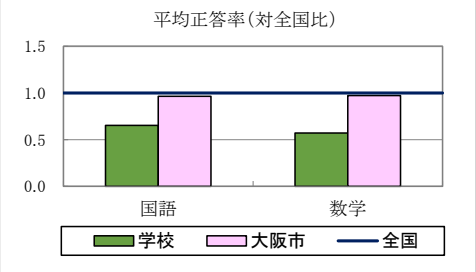
# 令和6年度　大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
## ―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

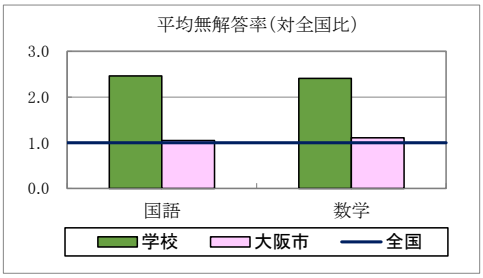
## 全国学力・学習状況調査　教科に関する調査より

### 【 全 体 】

| | 平均正答率(%) | |
|---|---|---|
| | 国語 | 数学 |
| 学校 | 38 | 30 |
| 大阪市 | 56 | 51 |
| 全国 | 58.1 | 52.5 |

| 平均無解答率(%) | |
|---|---|
| 国語 | 数学 |
| 9.6 | 27.2 |
| 4.1 | 12.5 |
| 3.9 | 11.3 |



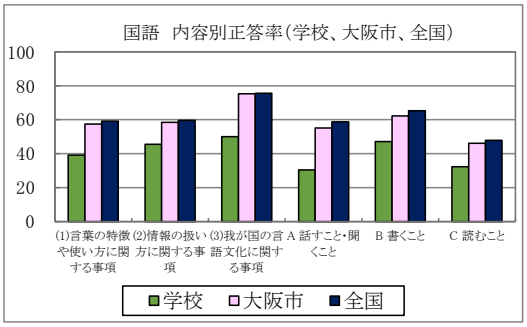



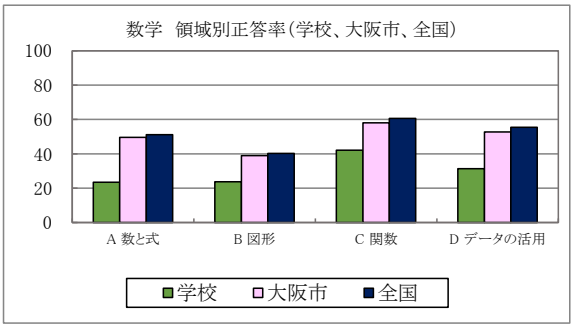

### 【 国 語 】

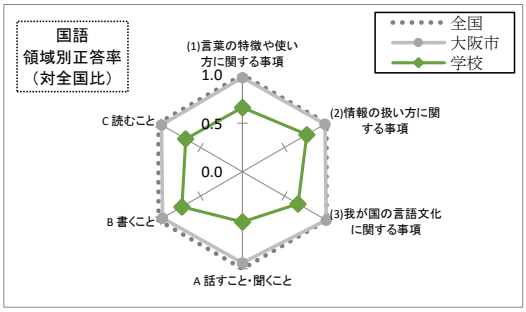
| 学習指導要領の内容 | 対象設問数(問) | 平均正答率(%) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い方に関する事項 | 3 | 39.2 | 57.5 | 59.2 |
| (2)情報の扱い方に関する事項 | 2 | 45.6 | 58.5 | 59.6 |
| (3)我が国の言語文化に関する事項 | 1 | 50.0 | 75.3 | 75.6 |
| A 話すこと・聞くこと | 3 | 30.4 | 55.2 | 58.8 |
| B 書くこと | 2 | 47.1 | 62.2 | 65.3 |
| C 読むこと | 4 | 32.4 | 46.2 | 47.9 |

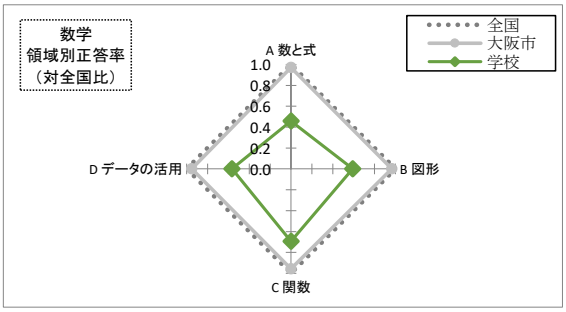
### 【 数 学 】

| 学習指導要領の領域 | 対象設問数(問) | 平均正答率(%) | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と式 | 5 | 23.4 | 49.6 | 51.1 |
| B 図形 | 3 | 23.8 | 38.9 | 40.3 |
| C 関数 | 4 | 42.1 | 58.1 | 60.7 |
| D データの活用 | 4 | 31.4 | 52.8 | 55.5 |



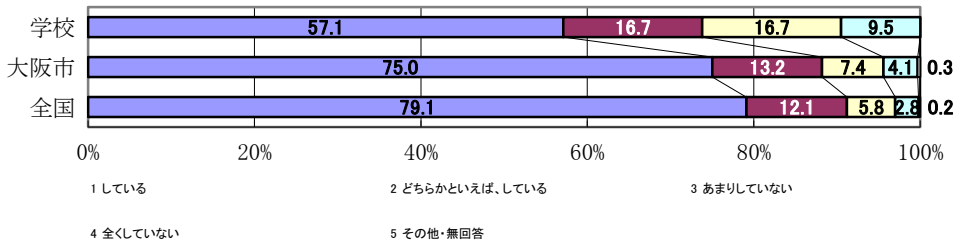



# 令和6年度　大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
# ―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

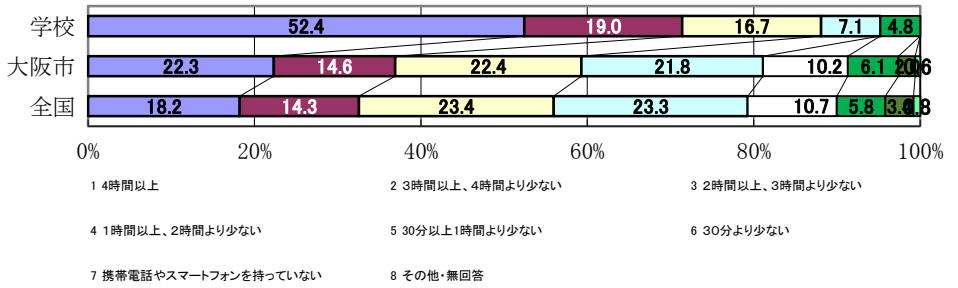
## 生徒質問より

■1　■2　□3　□4　□5　■6　■7　■8

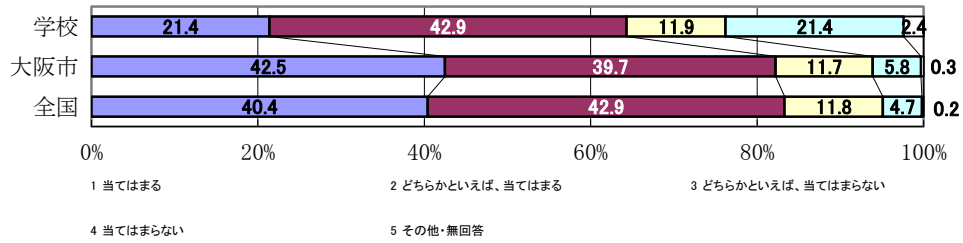
| 質問番号 | 質問事項 |
|---|---|
| 1 | 朝食を毎日食べていますか |



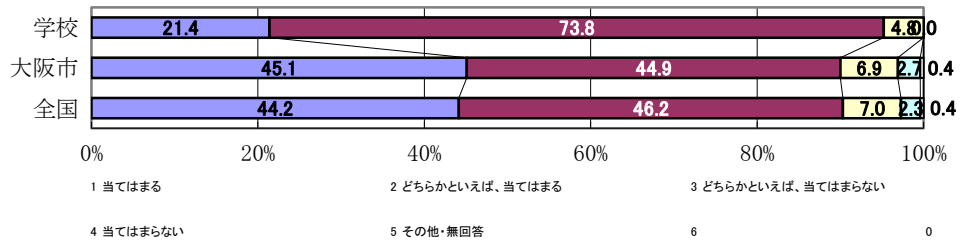

| 6 |
|---|
| 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） |



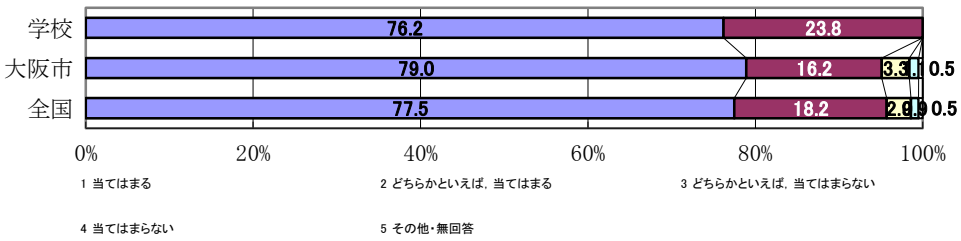

| 9 |
|---|
| 自分には、よいところがあると思いますか |




| 10 |
|---|
| 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか |




| 13 |
|---|
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか |

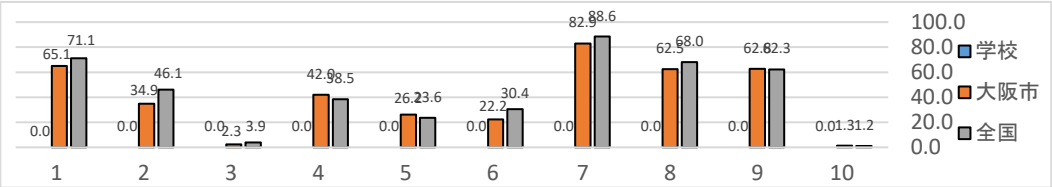


# 令和6年度　大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
## ―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

## 生徒質問より（26）

| 質問番号 |
| --- |
| 質問事項 |

| 26 |
| --- |
| 放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択） |




1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

3 地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む）

4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5 習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている

6 スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1～9に当てはまるものがない

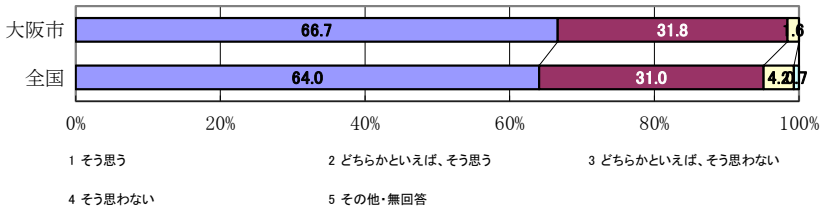
# 令和6年度　大阪市立鶴見橋中学校のあゆみ
# —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より

1　2　3　4　5　6　7　8　9　10

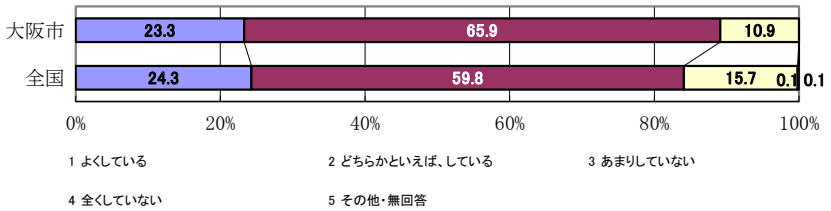
| 質問番号 | 質問事項 |
|---|---|
| 8 | スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか |

学校　「そう思う」を選択



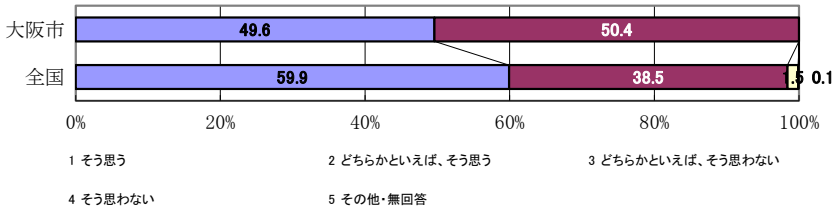

| 18 | 個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む） |
|---|---|

学校　「よくしている」を選択



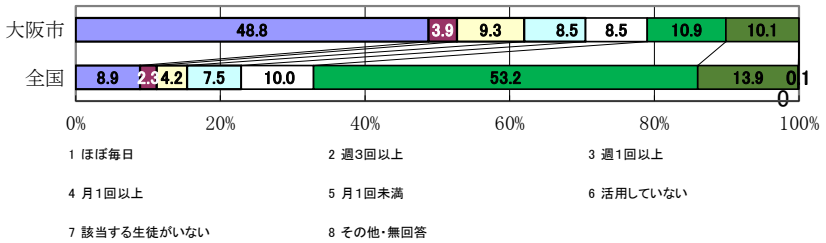

| 20 | 学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか |
|---|---|

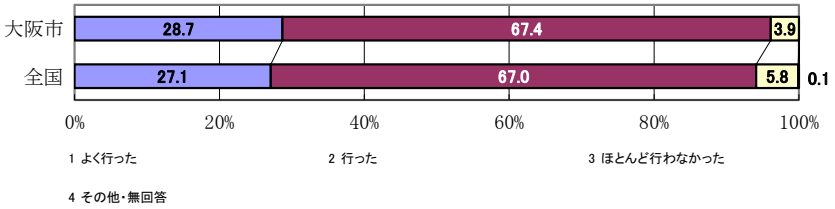
学校　「そう思う」を選択




| 69_6 | 生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(6)生徒に対するオンラインを活用した相談・支援 |
|---|---|

学校　「ほぼ毎日」を選択




| 78 | 令和5年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか |
|---|---|

学校　「よく行った」を選択